ラウンドテーブルディスカッション（番号）

**ビデオエスノグラフィーの可能性**

**－ビデオを用いたコミュニケーション分析の有効性を探る－**

**企画者・司会者：樫田美雄（徳島大学）、北村隆憲（東海大学）**

**話題提供者：樫田　美雄（徳島大学・ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）**

**北村　隆憲（東海大学・法学部）**

**渡　　正（徳山大学・経済学部）**

**指定討論者：岡田　光弘（国際基督教大学ほか）**

ビデオカメラの解像度があがり、研究に用いる実用性が高まってきている。本ＲＴＤでは、3つの分野（自閉症、介護保険認定調査、車イスバスケットボール）それぞれにおけるビデオの活用状況を報告するとともに、再生によるデータの協同チェックが容易であるというビデオの特徴を生かした「ビデオエスノグラフィー」という方法（ビデオデータを利用するとともに、エスノグラフィックな当事者的知識も従前に活用する社会科学研究）の可能性をも探っていきたい。各報告は、30分程度におさめ、討論に十分な時間を取りたく思っている。以下は３報告者の報告要旨である。

**（１）発達障害のビデオエスノグラフィー　樫田美雄（徳島大学）**

　「発達障害」児者をめぐるコミュニケーションが、現実にはどのように執り行われているかについて、ビデオとエスノグラフィーの両者を組み合わせて検討した。教室で発表すること、並ぶこと、などの「生徒」としての振る舞いにトラブルが生じている場面が分析された。分析の結果、トラブルに違ったストーリーがありうること、そもそもの我々の教室の秩序への期待そのものが問い直されなければならないことが、発見された。

**（２）介護認定調査のビデオエスノグラフィー　北村　隆憲（東海大学）**

介護保険サービスを利用するためには、本人の要介護度が決定されなければならない。要介護度の決定過程における２つの重要な意思決定の場は、市町村から派遣される認定調査員による「認定調査」と、認定調査の結果をコンピュータ判定にかけた後に医療・保健・福祉の専門職から構成される「介護認定審査会」で行われる第２次判定である。本報告では、介護保険要介護度決定過程におけるこの二つの現場における実際のビデオ録画データに基づいて、現場における参与者たちの相互行為を詳細に分析することからどのような知見を得られるのかについて、いくつかの実例を挙げながら紹

介したい。

[この報告は以下の研究者との共同名よるものです：深谷安子、木村勇介、樫田美雄、江本厚子、岡田光弘、高岡幹夫]

**（３）車椅子バスケットボールのビデオエスノグラフィー　渡　正（徳山大学）**

障害者スポーツの多くにはクラス分けという特徴的なルールが存在する。このルールは障害者スポーツの理念である機会の平等を保障するものとして公式には説明される。しかし、実際のゲーム場面では、個人の身体的な差異は無視できないものとして顕在化している。こうしたことは障害者スポーツの理念と現実との間に生み出された解消されるべき矛盾なのだろうか。本報告では車椅子バスケットのゲーム場面におけるビデオデータに基づき、プレイヤーたちの相互行為を分析することから、スポーツにおいて「障害」がどのように取り扱われているのかを検討する。